

NEW DENTAL SALON

ネット配信広報誌 第2号 2017年 夏

お知らせ

歯と口の健康週間行事報告

トピック

歯科医師会と私

思い出 町田 裕 先生

業者からの耳より情報

ケーオーデンタル株式会社

これからよろしく

(新人自己紹介)

加藤 徹 先生

連載紀行 気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

関根 潔 先生

会員投稿

佐藤雅之 先生

連載 下都賀歯科医師会側面史

落合雅雄 先生

編集後記

今回も皆様の原稿をいち早く戴けました。お陰様で期日に間に合いました。次号も定時に発行できますよう、ご協力お願いいたします。

広報担当理事 前橋 潮

歯と口の健康週間行事報告

平成29年6月4日恒例の歯と口の健康週間行事が開催された。今年は栃木市運動公園体育館で定番のフッ化物塗布事業の他に歯並びに関する講演、歯科相談コーナー、衛生士会の歯磨き指導の講演、新たな取り組みとしてのリップトレーナーを使用した口唇の機能検査などが行われた。また、別会場の栃木グランドホテルでは、ポスター、作文標語の入賞者の表彰式が行われた。口唇の機能検査には長蛇の列が出来たのは注目すべきところで、新たなイベントを企画し近年減少傾向にある参加者を増やす努力を怠らない事が肝要だと思われた。以下にその模様の写真を掲載したのでご覧頂きたい。



挨拶する白井会長



とち介くんも盛り上げてくれました



新しい取り組みのリップトレーナー



開場と同時に多くの入場者



リップトレーナーに長蛇の列



定番のフッ化物塗布



歯並びの講演



歯科医師会と私

思い出 町田裕

当時、自治体のため政治的な活動をしていた時分に、独協医大の誘致が持ち上がってきました。

壬生町出身の県会議員、佐藤三郎氏は壬生町への誘致が最重要課題であり、私のところにも何とか協力願いたいということで連絡がありました。私自身この事については従来からの持論でもあり、願ってもないことで“渡りに船”という思いで、この事を何としても実現しようと東奔西走しました。

但し、その当時、地元藤岡町医師会はさることながら県歯科医師会大塚会長からも、『君、誘致は止めてくれ』という連絡も再々いただきました。両者とも、患者をみんな独協医大に取られてしまう、非常に心配だということでありました。但し、その流れを止めることはできず、今の独協医大は誘致されました。

今はどうでしょう。その時反対していた医師会の先生方も、自分の子弟を入学をもさせ、患者も紹介し、歯科医師の先生方も多くの患者を紹介しております。「千万人と雖も我往かん」で実現に向かって参りましたが、後悔はありません。

先日、体調を崩し、自治医大で診察を受けましたが、いろいろな多くの患者の数に驚くばかりでした。この様な世の中になるうなどは、年金国会を垣間見て、その当時の官僚



や政治家は想像だにできなかったのでしょうか。

話は前後しますが、開業後、栃歯の野球部に入り、先輩諸氏にお世話になり、野球を通じて各県にも行くことができました。その頃、ほかの先生方は、その当時人気上昇中のゴルフを楽しんでいたものでした。野球を一途に楽しんでいる私に言わせれば、「止まっているボールなんかいつでも打てるじゃないか」とせせら笑ってました。

それから数年を経て、年齢的にも野球は無理…になってきました。

いつの日か、義兄に誘われてゴルフの練習場に行きました。空振りはずるわ、打てばボールは右に左に、ゴルフということの難しさをこの時程身に沁みて感じたことはありませんでした。

栃歯ゴルフクラブに入会させていただき、何も分からないままに初めてコースを廻ることになりました。栃歯でのゴルフコンペコースが日光カンツリークラブでした。同伴者には大先輩の高原先生が居ました。競技のルールも皆目解らない私を先生は手とり足とり、付きっきりで我を犠牲にして一日中教えてくださいました。その丸一日私はどう過ごしたのかさえ分からず無我夢中でした。当日の成績は72・52でした。パーティーで大波賞という賞をいただきました。帰宅後、ルールブックを買い求め読みました。それから練習も毎日欠かしませんでした。後日、日光カンツリークラブは日本でも指折りの名門コースだと知りました。それから数年後、栃木カントリークラブでハンディキャップは“1”になりました。皆川城カントリークラブのクラブチャンピオンを獲ることも出来ました。休日は殆どゴルフ場に居ました。

今はそれも過去のことになりました。年に7～8回のゴルフになりました。

最後になりましたが、今後、歯科会が発展し、何をさておいても開業している先生方が一人でも多く歯科

医師会という組織に加入していただく様、魅力のある会の構成を期待して止みません。

町田裕先生は平成29年春の叙勲において瑞宝双光章を受章されました。

心よりお喜び申し上げます。

業者からの耳より情報



ケーオーデンタル株式会社 宇都宮営業所 石川享史

春の日差しも心地よくますますご清栄のこととお慶び申し上げます

平素は格別のご厚情を賜わり深く御礼申し上げます。

さて、このたび弊社から新素材ノンクラスプデンチャー【デュラフレックス】の案内をさせていただきます。

近年、審美に関心を持たれる患者さんの増加によりノンクラスプデンチャーが定着してまいりました。弊社もこれまでに、ポリカーボネート系樹脂、ポリアミド系樹脂、ポリエステル系樹脂で紹介してまいりました。今回ご紹介させていただく素材はアメリカで発売され約7年程の臨床年数を経てこの度日本での認証を取得したノンクラスプデンチャー【デュラフレックス】です。





今までのノンクラスプ用樹脂と比較して下記の様な特徴が挙げられます。

- ・専用射出装置を使用し熱収縮が小さく適合性が向上しました。
- ・吸収性が少なく、問題となっていた変色や汚れの沈着が極めて少なくなりました。
- ・半結晶構造をしており、柔らかいが強靱で破折しにくくなりました。
- ・素材同士が接着剤なしで結合するため、修理が容易となりました。
- ・非常に柔らかく柔軟なため、深いアンダーカットを使用できるようになりました。
- ・ポリアミド系樹脂に比較して、

研磨が容易になりました。

これまでのノンクラスプデンチャーで問題とされてきた多くのことが、この新素材の登場によって解決されると思います。現在国内にて、ノンクラスプデンチャーの素材として主流となっているものとしてポリアミド系樹脂とポリエステル系樹脂が挙げられますが、今回ご紹介させていただく新素材は、ポリポロピレンを主成分とし、操作性の良さ、柔軟性、設計の自由度、耐久性等、患者様にご満足していただける材料と考えております。

詳しいお問い合わせ先

ケーオーデンタル株式会社 宇都宮
営業所 ☎026-637-2761

これからよろしく

加藤 徹



初めまして大平デンタルクリニックの加藤徹です。

栃木市大平町に開業して三年が経ちました。地域になじめるよう毎日頑張っています。

出身は東京の池袋で今年41歳になります。大学二年生まで実家から埼玉の明海大学へ通学しておりましたが三年生の時に親に無理を言って大学の近くに下宿させてもらいました。

若いときの独り暮らしは非常に楽しく、友達と毎日の様にドライブに出掛けました。その頃仲間内で流行していたのが熱帯魚の飼育でした。放課後二～三台の車に分乗して埼玉中の熱帯魚屋を見て回りました。その頃インターネットは普及していましたが、店のホームページやネッ

ト通販があまりなく、街中を走ってお店を見つけたり人づてに聞いてお店を探しに行くことが多かったです。

友人達は小さい水槽でグッピー等の飼育をし始めたのですが、頻繁に熱帯魚屋に行っていますとあっという間に水槽は増えていき、魚もだんだんと大きくなり、草食系から肉食系の魚へと変わっていきました。幸い私は小さい魚が好きだったので水槽は一つで済みました。

あれだけ過熱した熱帯魚飼育ですが大学卒業と同時にみんな熱が冷めてやめてしまいました。

大学卒業後は母校の補綴科で二年勉強させていただき、その後埼玉県熊谷市の開業医で修行させていただきました。はっきり言ってしまうと私は仕事ができるタイプの人間ではないので、この時の修行は本当に辛かったです。院長先生は親分肌の男勝りの女性でして常時怒られて自分が歯科医に向いてないのではないかと考える毎日でした。

院長先生のご指導のおかげで無事開業するまで成長ができ四年目を迎えようとしております。しばらく会ってないので今度挨拶に伺おうかと思えます。

連載 紀行

気が付けば乗り物嫌いが旅の虜に

タヒチ紀行 関根 潔

前回は私が乗物酔いを克服したお話でしたが、これからが本格的？な海外編が続きます。フライトタイムが伊豆大島の15分だったのが3度目は妻と娘の3人で11時間半のフライトで、タヒチへ行きました。

あんなに怖がっていた飛行機だったのに、けっこうグッスリ眠れたのであまり退屈さを感じませんでした。機内で目覚めた時、窓から外を見てビックリ！一生見ることが無かったはずの南十字星がい

きなり目の中に飛び込んで来て思わず両手を合わせてしまったくらいです。

CAさんから「乗りごここちはいかがでしたか？」の問いにサザンクロスの話をしたら、フライト勤務10年目で今だにサザンクロスを見たことが無いとの事で吃驚しました。

目的のボラボラ島へは双発プロペラ機でタヒチ本島から45分、機上から見えるいくつもの環礁がこの世の物とは思えぬ美しさでした。





環礁のど真ん中の孤島に700mほどのオーバーハング（登山で突き出した岩、張り出した岩）のあるオテマヌ山がとても奇妙で神秘的でした。



ホテルは長く海へ突き出した栈橋の左右にある藁葺の様な屋根の個室に泊まりました。

各室の床には厚い硝子が嵌め込んであり、お茶を飲みながら入浴しながら床下を歩き交う熱帯魚が眺められてとても快適でした。

プライベートビーチの砂はチョークの様に真っ白で、娘はスキューバダイビングに。我々は写真を撮りまくりました。

ただ残念だったのはホテルの食事が口に合わず、7000円もするようなコースにもかかわらずハーブが効きすぎなのかほとんど食べられず、タクシーで街に出て食べたマックのハンバーガーが何ともうまかったのが忘れられません。

オテマヌ山中腹から眺めた絶景、そして世界の大スターデカプリオ、トムクルーズ、日本の浅野ゆう子らの来店時のサインボードがぶらさがった有名なレストランでの食事は素晴らしい物でした。

3日目にタヒチ本島にもどり、見た事の無い魚や果物の並ぶマルシェや夕方からの屋台が楽しく、日常から掛け離れた夢の様な毎日でしたが、最終日のティータイムに家族と「もう日本になんか帰りたくない」などと言っていた矢先に日本ではとんでもない事が起こっていたのです。あの東日本大震災でした。

ホテルのTVではNHKのニュースで仙台空港と栃木にも近い前橋市の模様が放映されていたので栃木などもかなりの物かと思い、やっと繋がった電話での倅の話によれば栃木市内はあまり大きな被害は無かったらしいが、成田空港が閉鎖になり、結局2日帰国が遅れ、無事本土にたどりつきましたが、東北の被害が想像以上だったのを後になって知りました。

(2011年3月5日～14日の10日間の旅でした)

…次号に続く



会員投稿

広島へ そして大和 佐藤雅之

先日、友人が開いた喫茶店へ珈琲を飲みに広島迄行ってまいりました。

そしてついでに、呉市の戦艦大和ミュージアムへ行って来ました。改めて考えてみれば、大和は遙か

深い海の底。大和関連の実物は何一つなく、模型が鎮座しているだけであります。

しかしながら、展示されている人間魚雷や、零式戦闘機は実物。感慨を深めてまいりました。



私の歯科履歴書 落合雅雄

下都賀支部

下都賀支部では、戦後小山地区が下都賀から小山支部として分離独立した。

戦後下都賀支部長は、岡安(江俣先生の尊父)先生から斉藤信、添野虎雄(公選による市教育委員も務められた)、須賀暁、落合秀雄、佐藤繁、関根武治各先生(岡安先生を除いて)が1期2年ずつ務め、その後小平正夫先生が2期4年、石川良雄、新井栄二、高際徳之進各先生は3期6年、後に1期3年にしたように思うが定かではない。

石川良雄支部長の頃まで、支部総会の最重要議案は、慣行料金(主として補綴、後に保険非適用の修復料金)の改訂(値上げ)であった。

これより先小平支部長は、会員のレベルアップを目指し、当時ほとんどなかった学術研修会を年数回、催した。これがスタディクラブ設立の端緒になった。

歯科医師会入会

私は佐藤支部長の後期に入会し、関根支部長(戦時中は、マレーシア占領軍の陸軍将校だった)の後期から高際支部長に至る間の20年余支部の理事を務めさせてもらった。一貫して下都賀ファーストに徹して来たつもりだった。県歯では厚生委員(後に医療管理委員会)を務めた。当



時、東京では医療ミスから歯科医が告訴される事例が沸々と発生しつつあった。私は法歯学教室に通っていたので、このような事例の情報を知ることができた。そこで医師賠償保険に全会員が団体加入することを県歯に勧め、時間がかかったが、提案どおり全会員が加入し、今日でも継続され会員の安全弁となっている。

父が亡くなった時、支給された共済金や生命保険金は、葬儀を賄うには充分だったが、後の生活を保証する額は残らなかった。

間もなく保険時代が到来し、生命保険の団体契約が各社競って発売されて、保険料の団体割引と団体事務費と称する還付金が支部に支給された。

森戸先生の発案で、この事務費でパートの事務員を一人雇うと共に、支部の事

業補助金として支出が可能となり、支部事業の拡大に寄与した。石川良雄支部長のときである。

鎌田俊雄県歯副会長のアイディアと指導を得て医療管理委員会が担当した文化祭が今年解体される栃木会館の地下ホールで開催された。当支部は北海盆唄、翌年は日光和楽踊りを揃いの浴衣と花笠を廻して若手全員で踊った。その後カラオケ大会に代わり、関根潔先生が断トツで優勝した。数年続けられたが、いずれもデンタルファミリーの親睦を目的としたものであった。

支部対抗野球大会は、県歯の毎年の定番行事で、下都賀は分家の小山と合同チームとして出場していた。この後に関東大会があり、持ち廻りで真夏(高校の甲子園大会と同時期が多い)の炎天下ダブルヘッターを戦った。町田裕投手と共に落合左翼手も栃木県歯チームの一員として毎回参加した。しかし時流は、個人競技のゴルフが台頭し、日本列島いたる所でゴルフ場の建設ラッシュが続いて、団体競技の野球離れが始まり、当支部が最後に優勝したところで支部対抗野球大会団体は閉幕となり、関東大会もゴルフに代り、今日まで続いているようだ。

ゴルフー3Sクラブ

昭和30年代半ば頃、大平山麓に県内6番目のゴルフ場として栃木カントリークラブが誕生した。東京の東雲CCから赴任した支配人の誘いで下都賀支部から好奇心旺盛な輩が会員になった。しかし当時練習場は皆無、プレイが終わったゴルフ場のコースで HALF セットのクラブを与えられ、アシスタントプロから手ほどきを受けた。支配人からは煙草の消し方



に始まるガイダンスを受講。一方医師会でも盛んになり、薬剤師会も加わって3Cクラブと称し、月1回合同コンペを催した。栃木CC内でも最長寿のコンペとなり、まだ続けられていると思う。開催回数は年1~2回と少なくなったがゴルフによる交流で意志疎通も円滑になり、医療界にとって極めて有意義な会である。

下都賀支部のゴルフ同好会は、小平正夫先生を会長に3Sクラブと称し、月1回のコンペは時折県外へ遠征した。伊豆川奈CC、水戸大洗CCや冬眠から覚めたばかりの4月の白河高原CC、遠くは台北(各ホール毎にキャディにチップを要求された)へ。町田先生は下都賀歯科医師会只一のクラブチャンピオン(皆川城CC)になった。私のオフィシャルHCは、都賀CCの月例で隔々優勝し、21をもらったが、巧くなる見込みはなく、体のパーツがプレイに支障をきたすようになった65歳定年として止めてしまった。

ゴルフ全盛期に入会された先生方では、支部で最も長くプレイされた三上先生を凌駕するプレイヤーが寺内真平先生を筆頭に陸続と輩出し、シングルプレイヤー粟田口淳一先生一人の医師会を圧倒した。ゴルフでも世代交代が到来していた。

次号に続く